

「自立と一体感」心一つに 第一貨物

第一貨物(武藤幸規社長、山形市)は2日、本社で入社式を行った。事務職22人、整備職10人、運転職47人の新入社員79人を迎え入れた。昨年は70人で、運転職や整備職で9人を増やした。

武藤社長が「震災では国民生活に不可欠なトラック輸送の役割があらためて認識された。国内輸送量の9割を担っているのもトラックであり、日本経済の発展や、社会に貢献している。それを自覚し、誇りを持って仕事に臨んでほしい」と強調。

また「社会に第一歩を踏み出す諸君には、『自己研さん』に努めてほしい。自立することが大切で、本当の勉強はこれから始まる。1日30分、あるいは1時間でも構わない。その積み重ねが大きな成長につながる

る」と社会人としての心構えをアドバイスした。

さらに「当社の特種事業は1人だけで完結する仕事ではない。バトンリレーのように、一人ひとりが完璧に役割を果たすことで完結する。自立とともに『一体感』を持つことが必要。社

歌にあるよう『心と心を1つ』にして、1つのサービ

スをつくりあげよう。活躍を期待する」と激励した。

これに対して、新入社員を代表して後藤剛隆氏が「1日も早く社会人として成長し、期待にこえるよう努力する」と答辞を述べた。

なお、新入社員の紹介では、氏名とともに「顧客に信頼されるドライバーを目指す」や「安全運転に徹したい」など、一人ひとりが決意を表明した。

(黒田 秀男)



答辞を述べる後藤さん

(手前は武藤社長)